創立120周年

東京歯科大学広報

金子 譲学長再任・新人事発令される

平成22年5月31日をもって任期満了を迎える金子 譲学長の後任の学長選任は、学校法人東京歯科大学寄附行為に定められた手続きに従い、法人理事会からの次期学長推薦の諮問を受け、平成22年3月16日(火)開催の第568回教授会において金子 譲現学長が推薦された。教授会の答申を基に、3月31日(水)開催の第661回理事会並びに第222回評議員会において金子学長の再任(3選)が決定された。

さらに、4月16日(金)開催の第662回理事会において、寄附行為施行細則第5条に規定する役職者として、副学長の井出吉信教授、市川総合病院長の安藤暢敏教授が現職に再任され、副学長に柳澤孝彰教授、千葉病院長に髙野伸夫教授、水道橋病院長に一戸達也教授(法人主事兼務)、大学院歯学研究科長に井上 孝教授、歯科衛生士専門学校長に石井拓男教授が新任された。

なお、任期は平成22年6月1日から平成25年5月31日までの3か年間である。

新役職者の就任に伴い、6月1日(火)午前11時より千葉校舎理事長室において、熱田俊之助理事長より寄附行為規定の新役職者に辞令が交付された。

次いで、午後1時30分より学務役職者に対する辞令交付が第一会議室で行われた。公務出張中の金子学長に代わり、井出吉信副学長から石井拓男移転部会統括部長以下27名の新任者に対し辞令が授与された。

なお、3病院関係の役職者に対しては、それぞれの病院において、各病院長から辞令が交付された。

2010年6月
243号

本号の主な内容

金子 譲学長再任・新人事発令される …… 1
学長就任式挙行 …… 3
法人役員の選任 …… 14
平成23年度東京歯科大学入学試験要項 …… 30
平成21年度財務の概要 …… 34

東京歯科大学学務等役職者

任命期間：平成22年6月1日～平成25年5月31日（定年退職者は当該日まで）　（敬称略・順不同）

※診療科部長・診療科科長・教育主任の任命期間:平成22年6月1日～平成23年5月31日　平成22年6月1日

役職	氏名	役職	氏名
＜寄附行為規定役職者等＞		＜千葉病院＞	
学長	金子　譲	副病院長	櫻井　薫
副学長	井出吉信	副病院長	柴原孝彦
副学長	柳澤孝彰	副病院長	中川寛一
千葉病院長	高野伸夫	保存科部長	中川寛一
市川総合病院長	安藤暢敏	小児歯科部長	新谷誠康
水道橋病院長	一戸達也	口腔外科部長	柴原孝彦
大学院歯学研究科長	井上　孝	歯科麻酔科部長	一戸達也
歯科衛生士専門学校長	石井拓男	歯科麻酔科部長代理	櫻井　学
法人主事	一戸達也	補綴科部長	佐藤　亨
		矯正歯科部長	末石研二
		放射線科部長	佐野　司
図書館長	松久保　隆	口腔インプラント科部長	矢島安朝
副館長	内山健志	総合診療科科長	角田正健
分館長	丸茂　健	スポーツ歯科科長	石上惠一
分館長	堀田宏巳	内科科長	大久保　剛
口腔科学研究センター所長	井上　孝	摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科科長	石田　瞭
教養科目協議会幹事	橋本正次		
基礎教授連絡会幹事	田﨑雅和	臨床検査部長	井上　孝
臨床教授連絡会幹事	矢島安朝	総合予診室長	佐野　司
教務部長	河田英司		
副部長	柴原孝彦	＜市川総合病院＞	
副部長	石原和幸	副病院長	菅　貞郎
副部長	望月隆二	副病院長	西田次郎
副部長	平田創一郎	副病院長	濵野孝子
学生部長	佐藤　亨	病院機能統括部長	森下鉄夫
副部長	矢島安朝	歯科・口腔外科部長	山根源之
副部長	中村光博	内科部長	森下鉄夫
副部長	新谷誠康	循環器内科部長	大木貴博
副部長	阿部伸一	消化器内科部長	西田次郎
研究部長	水口　清	小児科部長	江口博之
副部長	石上惠一	外科部長	松井淳一
副部長	吉成正雄	脳神経外科部長	菅　貞郎
国際渉外部長	佐野　司	心臓血管外科部長	申　範圭
学会・学術出版部長	小田　豊	整形外科部長	白石　建
歯科学報主任	小田　豊	リハビリテーション科部長	新井　健
欧文紀要主任	水口　清	産婦人科部長	髙松　潔
研究機器管理部長	石原和幸	眼科部長	島﨑　潤
環境安全管理部長	川口　充	耳鼻咽喉科部長	中島庸也
実験動物施設管理部長	田﨑雅和	皮膚科部長	髙橋愼一
広報・公開講座部長	橋本貞充	形成外科部長	田中一郎
臨床教育委員長	矢島安朝	泌尿器科部長	丸茂　健
臨床研修委員長	角田正健	放射線科部長	青柳　裕
総合講義・実習委員長	河田英司	麻酔科部長	小板橋俊哉
臨床基礎実習室運営委員長	中川寛一	精神科部長	吉野文浩
健康管理センター主任	大久保　剛	臨床検査科部長	宮内　潤
情報システム管理委員長	河田英司	市川総合病院歯科教育主任	外木守雄
アイソトープ研究施設管理部長	石原和幸	市川総合病院医科教育主任	西田次郎
アイソトープ研究施設放射線安全管理室長	佐藤　裕	角膜センター長	篠崎尚史
歯科医学教育開発センター主任	河田英司	リプロダクションセンター長	石川博通
		口腔がんセンター長	山根源之
＜大学院研究科＞		＜水道橋病院＞	
教務部長	東　俊文	副病院長	髙野正行
学生部長	末石研二	副病院長	古澤成博
		総合歯科科長	古澤成博
		口腔外科科長	髙野正行
移転部会統轄部長	石井拓男	矯正歯科科長	片田英憲
		小児歯科科長	久保周平
		歯科麻酔科科長	福田謙一
		口腔インプラント科科長	関根秀志
		障害者歯科科長	大多和由美
		内科科長	仁科牧子
		眼科科長	ビッセン弘子
		水道橋病院教育主任	片倉　朗
		＜歯科衛生士専門学校＞	
		副校長	髙橋俊之
		教務部長	杉山哲也
		学生部長	杉原直樹
		予防処置室長	髙橋俊之
		教務主任	白鳥たかみ

※歯科衛生士専門学校の教務主任の任期：平成22年4月1日～平成23年3月31日

■学長就任式挙行

金子 譲学長の就任に伴い、平成22年6月7日(月)午後6時より千葉校舎講堂において学長就任式が開催された。その模様は、テレビ会議システムにより水道橋校舎、市川総合病院へ中継された。

式は、熱田俊之助理事長ご臨席のもと、教職員、大学院生、臨床研修歯科医等多くが出席するなか、吉峯規雄大学事務部長の司会により開式となった。熱田理事長よりお祝いの挨拶が述べられた後、金子学長からスライドを使用して、本学を取り巻く諸情勢と今後の展望について説明がなされ、全教職員が一丸となり協力して今後の大学の発展に尽力していく旨の挨拶があった。

次いで吉峯大学事務部長から寄附行為規定役職者の紹介が行われ、就任式は滞りなく終了した。

学長就任式で挨拶する金子学長：平成22年6月7日（月）、千葉校舎講堂

祝　　辞

学校法人東京歯科大学
理事長　熱田　俊之助

教職員の皆さんこんにちは。理事長の熱田でございます。

まず始めに、先月の8日、9日の両日に創立120周年記念学術講演会を、22日には記念式典、祝賀会を無事に執り行うことが出来ました。いずれも皆さんのご協力によって盛会裏に終えることができ、理事長として深く感謝申し上げます。

さて、去る3月31日開催の第661回理事会並びに第222回評議員会において、金子 譲学長の再任が承認され、本日就任式が挙行されますことを皆さんと共にお祝いしたいと存じます。

皆さんもご承知のように、本学は創立120年という大きな節目を迎え、歴史と伝統を継承しながら将来を展望すべく、伝統の地、水道橋にメインキャンパスを移す一大事業を進めております。

皆さんにはどうかひとつ、金子学長及び壇上の新しい大学執行部を支え、教職員一丸となって、東京歯科大学の歴史上にも残るであろう一大プロジェクトを成功させて頂くよう、心からお願いを申しあげましてご挨拶といたします。

学長就任のご挨拶

金　子　　譲

皆さん、本日は就任式ということでお集まり頂き、ありがとうございます。これから大学の置かれている現状と本学がこれからどう進むべきかお話させて頂きたいと思います。

本学の現状

まず東京歯科大学の規模を見てもらいたいと思います。教職員として勤務されている方は1,202名です。そして人件費は115億円で、これは総収入の約半分です。総資産は固定資産が491億円(減価償却引当特定資産、施設設備整備引当資金、第3号基本金引当資金を含む）ですが、もちろん実際の価格はこの数倍になります。会計処理上、昔の土地の価格のまま計算したもので、実際に売買するとなれば相当

高いものになります。また、流動資産は65億円ですが、その他に退職金の為に引き当てているものがこの同額以上あります。ただし、これは手をつけないものです。借入金は現在何もありません。借金ゼロということです。学生さんは、歯学部が809名、大学院が142名ということですが、大学院生は極めて多い数です。私立歯科大学の大学院生数はほとんどが50名前後で、多くても100名ぐらいですので、これは本学の大きな特徴と言えます。また、歯科衛生士専門学校生は134名です。

次に東京歯科大学の消費収支を見てみます。これは平成19年度から21年度の3年間の決算で、帰属収入、消費支出、そして帰属収入と消費支出の差をグラフにしました。要は、収入が230億円から240億円ぐらいあっても、その利益になるのは10億円前後ということです。それでも良い方なのです。来年度予算から見ると、利益になるのはプラス1億円程度です。ですから、企業とは全然違うのです。東京歯科大学はこの点で、貯め込まない伝統と言いますか、本来はあって然るべきところもあるのですが、きちんと投資をしていくという結果がこういう現状になっています。来年度も赤字にならないようお願いをしている訳ですが、各所属長が工夫してくださっているので、予算よりは決算が良くなるだろうと期待しています。

本学は良い時でも2～3%の利益しかないのです。平成22年度はこの利益が少ないのですが、平成22年度の予算の特徴は、まず人件費が総額から約4%アップします。額ですと4億5千万円です。文科省からの経常費補助金は減額されます。現に平成20年度から21年度は約7千万円減額されていますので、これ程ではないとしても今後、漸次減額されていきます。それから創立120周年記念事業費の1億円が計上され、また大学移転の計画は実行の段階に入っていきます。購入したビルの解体とか実施設計が着手されます。年度内には起工式ができるだろうという考えです。さらに市川総合病院の充実、電子カルテなど医療情報システムを充実させるといったところが特徴となっています。

歯科大学の現状

歯科大学の2極化が非常に進んでいることはよくご存知の通りです。特に目に見えることがはっきりしてきまして、歯科医師国家試験は平成16年度から合格率が70%台になってきました。ここ2年は70%を切っており、さらにもっと低くなる可能性もあるということになってきています。本来は選抜試験ではありませんので、これ程厳しいのもおかしいとは思いますが、実際29の歯学部の一番上から一番下まで見てみますと、90%～30%台までと非常に差があるのです。このような差ですと厚労省に対しても適切な合格率にしてもらいたいという話ができません。なぜなら、これだけ教育の質に差があると、社会理念ではあまり合格率を高くして均一化をさせるということは言えないからです。また私立の総募集定員に対する充足率が昨年度から10%足りませんでした。さらに今年は20%も低いという、考えられないような事が起きています。合格率と定員の両方をきちんとクリアしている大学というのは極めて少なくなってしまいました。〔スライド1〕

このようなことから歯学部間で競争が激化している訳ですが、その要因は今お話しした2つと、受験生の都心志向、いわゆる伝統校と新設校、それから学納金が挙げられます。この要因を踏まえ、学生さんにとって、魅力ある大学にしていきたいと各大学が色々と工夫しています。〔スライド2〕

しかし今年の結果は、私立17歯科大学、歯学部でみると定員が充足したのは僅かに6大学しかありません。しかも定員不足のところは数%の不足というのは極めて少なく、多くが10～40%の不足なのですから、ただならぬ状況になっているわけです。充足した6大学を見てみますと、いわゆる伝統校の4大学、それから名古屋と東京都心の2大学で、今後もこういう傾向になっていくことでしょう。これは日本経済が非常に関わっていて、この状況が数年間は続くと予測されます。さらには歯科医師の過剰問題から、歯科医業の将来を危惧する方々が増えたこともあり、この2極化は現状推移、もしくはもっと厳しいことになっていくでしょう。

将来をここ数年だけではなく、さらに先を見てみますと、今後10年間、18歳人口はほぼ同じですが、それ以降は激減していきます。30年後の150周年になりますと、今の6割台になり4割位減ってしまい

ます。当然歯学部志願者も少なくなるわけで、それに備えることになりますが、高齢人口の増加で、活性のある社会というのはなかなか厳しいと既に言われています。将来を考えて今が準備の段階であり、各大学共に、2極化された歯科界の中でどちらに属するのか、分水嶺であります。その年その年、それなりの成果を挙げていくことが必要だと思います。〔スライド3〕

今後の東京歯科大学

本日皆さんのご支援を頂きまして、こうして壇上に立たせて頂くのは3回目となりました。大変光栄なことであります。平成16年、私が学長に就任した時に大学の目標と運営方針をお話させて頂きました。〔スライド4〕低コストで、研究、教育、臨床の面で高い機能を持った、ハイブリット型の大学にしていかないと、今後のグローバル化の中で、東京歯科大学が今までの歴史を背負って先導性を持っていくのは難しいということです。このことは少しも変わっていませんし、年度を重ねるにつれてさらに強く感じています。2年前に法人の決定によって、大学は水道橋に戻ることが決まりましたが、これも当初の目標と運営方針の延長線にある、大きな事業の一つと受けとって頂きたいと思います。これから水道橋に帰ったら、それで安心ということは何もありませんが、競争と連携という首都立地の強みを活かして、最大限に首都機能を利用する具体的な事柄はいくつも考えられます。何れにせよ、大学が1つの枠の中だけでなく、企業、他大学、あるいは既に開業、臨床されている方々と、非常に多方面で緊密な連携を取りながら競争していくことが、東京に帰ったときにやるべき事だろうと思います。

また、東京歯科大学は3箇所でそれぞれの地域的な特徴を持った施設展開をしています。特に市川では総合病院ということで大きな機能を果たしています。これを活かし、教育、研究の面、さらに今後は臨床の面でも極めて緊密な関係を持ちながら、この3施設が連携を取っていくことが強みになると思います。

体制整備とは教育、研究、診療での改革で、財務構造改革というのも先程ご覧頂きましたような予算総額の改革ですが、あの収入の中で2割が学納金なのです。この2割が財務の上では非常に大きな役目をしており、増減が無く安定的な収入が保たれているのです。良い教育、研究、臨床の環境を整えておけば、多少の減額をしなくても、さほど志願者の選択には影響しないと私は思っていますが、それでもなお経済が厳しくなれば、やはり安い方が良いということになります。この面でも水道橋に帰った後、財務の安定の見込みが付けば、学納金の減額に目を向けて構造改革をする必要があるだろうと考えています。これは熱田理事長の采配のもと、色々とお考えが出てくると思います。さらに現状の社会環境の中では広報活動が非常に重要で、新聞などのメディアを通じて積極的に活動していき、また同時に高等学校や予備校にも東京歯科大学の特徴を大いに宣伝させてもらいたいと思っています。今でも教務が主体になって各高校や予備校を回っていますが、本学がそんなにも良い大学ですかと驚かれるとのことです。それは歯科全体の広報活動が乏しいからで、こういう面も鑑みながら、積極的に活動していくことが必要になると思います。〔スライド5〕

大事なことは、国が今どういう事を考えているかをしっかりと認識した上で、現状並びに将来展望をしていくことです。平成15年の大学審議会が私立に対して出した方針は、個性的な大学、大学の質の保証、競争と連携の時代に入ること、グローバル化における国際的な評価基準の認識、大学院の充実です。〔スライド6〕これから世界、例えばアジアで歯科医師免許がどういう風になっていくかは分かりません。その時に右往左往しなくて済むように、質をきちんと確保していくことが第1の準備になる訳で、今予測が付かなくても、いつでも質の保証をしておけば、2極化の中でも良い位置にいられることが大事です。大学院は東京歯科大学の将来的に大きな柱であります。大学院重点化大学ではありませんが、学部教育並びに大学院生の育成で大きな特徴を出していく考えです。

この間、再生医学・医療のお話を伺って新しい時代を感じていますが、これから高齢化社会や再生医療に比重が置かれていくことは考えられます。既に口科研で行って頂いていますが、教育や研究もこの視点を重点的にしていくことが大切です。チーム医療、在宅医療に関しても医科系の皆さんと協働でき

る歯科医師を育てる為には、医学的素養が必要です。市川総合病院でこの面でも既に先を走っていると思います。こういった視点で教育カリキュラムの改正や研修もあるでしょうし、大学院、口科研の実態の確立に向う仕事を関係各位にお願いしたいところです。〔スライド7〕

今必要な重点対策

ここ1、2年、その先も続きますが、本学の入学者が一名たりとも定員不足になっては具合が悪いので、特に必要な重点対策はやはり歯科志願者・18歳人口減少への対応になります。魅力ある大学であることは大切で、それには教員の資質の向上、つまりファカルティ・ディヴェロップメント（FD）です。やはり教員が良くなければ学生が良くなるわけがないと思います。今後はこの面でもいろいろな企画が出てくると思いますので、積極的に皆さんの参画をお願い致します。また、現在数名である留学生の受入れをさらに進展させていきたいと思います。知識基盤社会への対応は多少具体性に欠けますが、現状でも既に手を付けてありますし、またさらに進展させていかなければなりません。色々考えてもやはりハイブリット型ということです。〔スライド8〕

FDは重要で、広義と狭義があります。広い意味では、教育、研究、社会的サービス、管理運営の機能開発と言われています。これは何かやった後、自己点検・評価が必要ということです。狭い意味では、教育に焦点が置かれており、カリキュラム、教育技術に関する教員の資質改善ということです。教育の焦点においてはその効果がきちんと出ています。今後はこれにも増して広い意味でのディヴェロップメントのための企画もして頂きます。〔スライド9〕

大学院の人材養成というところで、私は東京歯科大学がまた先導性を持てるのではないかと考えています。これは研究者育成、それから大学院を出て大学に勤めるということは、まず教育者になるのがほとんどですから、教育者育成のカリキュラムもあって然るべきかと思います。現在はTAもあり、お金も出してくれているわけですから、教育実習という位置づけも重要でしょう。また臨床医では大学院の臨床講座での専門医への過程であろうと思います。〔スライド10〕

こちらは、教育でいろいろな発言のオピニオンリーダーになっている東京大学の金子元久教授が、大学生を分類しておりまして、教育効果がどうなのかという図式です。〔スライド11〕大学教育というのはいつでも、この右上の高同調型の学生さんを前提で色々なことをやっていますが、実はこういう方は2割とか極めて少なく、その他の大学教育の効果が出にくい学生さんをどうしていくかが教育の本質であることを言われています。これは我々教員の分類にも当てはまるのではないかと思います。大学への高同調型、疎外型これらは全く教員にも当てはまるのではないでしょうか。大学という大きな機能を持ったところで、疎外型という先生方を中に引きずり込む無駄な努力は要りません。一旦入った学生なら、疎外型は何とか自己を確立させて社会に役立つような人にと思いますが、ここは職業の場です。従ってそれぞれが自己認識を持った上で働いていることになりますので、ご自分で決めて頂くことになるし、或いは講座主任もその方の人生という進路の責任でもあり、徒にただ留めておけば良い話ではありません。人材育成として、鼎の3つの足が医学部、歯学部における臨床、教育、研究のバランスであろうと思います。〔スライド12〕文科省では、研究大学か教育大学なのかどちらか決めるように言われていますが、歯学に関しては決められない、決めてはいけないと思います。この3つのバランスが良いほど、教育環境にも優れていることになりますので、本学の建学の精神を、時代性を持って育成していくことで、将来性のある人材ができるのではないでしょうか。

最後に―移転に向けて

最後になりますが、ご存知のように平成24年には、さいかち坂校舎（仮称）に1年生が入って参ります。今、井出副学長が建設担当ということで、精力的に働いてくれています。この数枚の写真はまだ設計の段階ですが、このようなニュアンスのデザインになる予定です。〔スライド13〕これは第1会議室の前に掲示されていますので、ぜひご覧になって頂きたいと思います。もう間近の話でありますし、東京歯科

大学の今後の充実期を目指して、皆さんの力無くしては進みません。後の歴史家がこれは凋落期か転落期などと言わないように、これまでの発展期から、常に競争で闘わなければならないこともありますけれども、安定的な充実期を目指してご尽力を願いたいと思います。今後この移転に関して各部門で具体的なソフト作成がどんどん進んでいきますので、大いに皆様もこの内容を理解して発言して頂いて、より良いものになるよう創り上げていきたいと思っています。宜しくご協力をお願い致します。どうもありがとうございました。

〔1〕

歯科大学２極化

1. 歯科医師国家試験
・平成16年度から国家試験低合格率（29歯学部）
H21年度　69.5%（90.4～32.5%）

2. 募集定員
・平成20年度から募集定員不足（私立歯大17校）
H21：10.6 %（202/1904）
H22：21.3 %（402/1891）

〔2〕

歯学部間競争主要因

・国家試験合格率
・定員充足率
・都心志向
・新設校といわゆる伝統校
・学納金

〔3〕

2極化の顕在と今後

・低経済、歯科医業の将来危惧（歯科医師過剰問題）から現状推移
・10年後からの18歳人口減少、高齢人口の増加で、さらなる厳しい環境が予測
・今が分水嶺

〔4〕

東京歯科大学の目標と運営方針

・歯科大学としての使命を果たす
・時代に適合させる
・「建学の精神」にのっとり先導性を目指す
・有為な人材育成をする
・財務基盤の確立
・ハイブリッド型大学にする：高機能・低経費

平成16年　学長就任挨拶

〔5〕

東京歯科大学の将来像

・首都の立地の強み、特徴、可能性を最大限に利用（競争と連携）
・３施設の特徴を大学ブランドに生かす：
水道橋：首都地　　市川：総合病院
稲毛：地域医療
・体制整備：教育・研究・診療での前進
・財務構造改革
・広報活動：社会・高等学校等

〔6〕

高等教育に対する国家的方針

平成15年　大学審議会

・個性的な大学
・質の保証
・競争と連携
・グローバル：国際的評価基準
・大学院の充実

〔7〕

新しい時代の徴候

・高齢者歯科医学・医療：有病率、ＱＯＬ
・再生医学・医療
・口腔と全身の機能的統合機構研究と臨床適用
・医科系業種との協働（チーム医療）
・医学的素養の必要性
・国際性

教育カリキュラム改正・研修
市川総合病院との連携強化
研究体制改革：大学院・口科研

〔8〕

今必要な重点対策

・歯科志願者・18歳人口減少への対応
魅力ある大学：質保証、学納金減額、
教育の資質向上（FD）
留学生の積極的受け入れ（東アジア）
・知識基盤社会への対応
成果の見える研究
役に立つ教育：移転後のカリキュラム再構築
先進的医療・歯科医療
・グローバル化への参画
・財務構造改革：学納金比率の縮小

ハイブリッド型大学：高機能・低経費
「東京歯科大学の将来構想」：東京歯科大学広報　09・1

〔9〕

ファカルティ・ディヴェロップメント（FD）

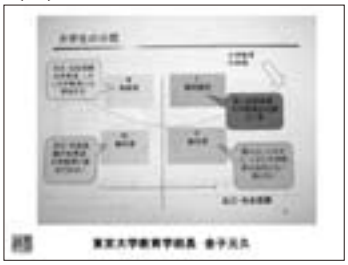
・広義：教育・研究・社会的サービス・管理運営の機能開発。組織体と個人の自己点検・評価を含む
・狭義：教育に焦点。規範構造・内容（専門、教養）・カリキュラム・技術に関する教員の資質改善

〔10〕

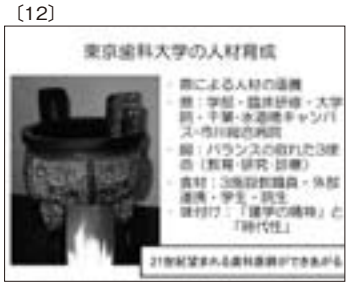
大学院：人材養成

・研究者：口腔科学研究センターの拠点化
・教育者：カリキュラム改革・TAとしての実習
・臨床医：専門医への過程

〔11〕



〔12〕



〔13〕

■副学長就任のご挨拶

井　出　吉　信

このたび副学長（学務担当）を再度拝命致しました。

副学長の職務は言うまでもなく学長を補佐し、研究、教育の推進指導に当たる事であります。現在、各歯科大学では、歯学を志す受験層の減少、さらに診療の高度化に伴う教育方法の改編、国家試験への対応等、大変多くの問題を抱えております。また大幅に定員を満たさない大学や、国家試験の不合格率の高い大学が出ております。幸い、東京歯科大学は、迅速に教職員が一丸となって危機に対処して参りました。しかし、今後さらなる18歳人口の減少を迎え、それに伴う入学者の学力の低下が懸念されております。能力格差の大きい学生を迎える現状に対して、一律な対面授業だけでは無く、個々の学生にあった授業に連動した在宅学習を含め、きめ細かな教育手法を構築する必要があります。またより高い資質を持った学生の確保が重要になってきております。現在、教育現場の皆さまに大変ご努力を戴いておりますが、過去の成功体験が逆に足かせとなり、新しい改革の発想が生み出されない事も懸念しております。学力不足の学生教育に目を向けると共に、建学の精神である人間性豊かな国民歯科医療を担えるリーダー足る人材育成を、今以上に目指す必要があります。

私は、現在水道橋移転担当の常務理事も仰せ付かっております。今期は移転が具体的な形となって現われてきます。ただ立派な建物を建築する事が大切な訳ではありません。ましてや回顧的感情で水道橋に戻るのではありません。水道橋キャンパスは千葉キャンパスに比べ施設的には狭隘でありますが、街全体がキャンパスのキャッチフレーズの下、他大学、他研究施設、文化施設等、学生、教職員は今まで以上に多くの交流と情報に触れることが可能となります。そのため世の中の変化に敏感になり、発想の転換が可能になる事を期待しております。

最先端の教育と診療を学生と国民に与えられる、日本のみならず世界をリードする歯科大にすべく、皆様と共に邁進する所存でございます。

ご支援の程宜しくお願い致しまして、副学長再任のご挨拶とさせていただきます。

■副学長就任のご挨拶

柳　澤　孝　彰

このたび大学役職者の任期満了に伴い金子 譲学長が再任されました。本学は副学長二人制ですので、同じく再任されました井出吉信副学長と共に、ご退職なされました藥師寺 仁前副学長の後任として、不肖私が副学長の大役を6月1日付けで拝命いたしました。

私は基礎系講座に属しており、また前任期中は大学院研究科長を務めておりましたので、これまでは教育と研究、そして講座と大学院の限られた中での管理運営が業務の主体を占めておりました。しかし、これからは大学全体の総務が主たる業務になります。もとより浅学非才の身ではありますが、井出副学長と協力して金子学長を補佐し、東京歯科大学の恒久的な存続と更なる発展を目指し、職務に全力を尽くす所存であります。

現在、歯科界を取り巻く状勢は極めて厳しく、歯科医学教育を含め、あらゆる面で大きく、しかも急速に改革が進められております。そのため医歯系大学の使命である教育、研究、医療における本質と現状をしっかりと分析し、社会の動静にマッチさせた戦略的構想が必要となりましょう。更に近年、文部科学省高等教育局は「連

携」と「競争」をこれまで以上に強く前面に押し出してきております。幸いにして大学院研究科長時代に同省が推進する「がんプロフェッショナル養成プラン」の一つである北里大学を主幹とする9大学13大学院からなる「南関東圏における先端的がん専門家の育成」に本学の大学院が全国歯科大学・歯学部から唯一の歯学系大学院として参画するようになりました。また産学連携のための基礎ともなる企業研究所との連携も実現させて参りました。この経験を「連携」と「競争」の更なる推進に生かすことができればと思っております。

このような中、本学はメインキャンパスを来る2014年から逐次水道橋へ移転することが機関決定されております。副学長として大任を果たすことができるのか、危惧と不安で押しつぶされそうでございますが、全力を尽くし職務に当たる所存でございます。皆様方のご協力とご鞭撻を心からお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

■千葉病院長就任のご挨拶

高　野　伸　夫

東京歯科大学は2010年の本年、創立120周年を迎えました。2008年に法人理事会・評議員会で決定された大学機能の水道橋移転計画も徐々に進行しつつあります。また同時に東京歯科大学千葉病院存続の決定も受けましたが、ご存じのように、現在の歯科医療現場は逆風にさらされ、極めて厳しいものがございます。千葉病院を維持し、さらに発展させるためには医療安全に努めることは勿論ですが、医療連携を中心に「地域のニーズに合った先進機能を有する特色ある病院」を目指して、周囲診療所および病院との連携をさらに強化することが必要であると考えます。また同時に、大学機能の水道橋移転を円滑に行うための準備もしていかなければなりません。そのためには水道橋病院ばかりでなく、千葉病院も病院形態の改変を徐々に推し進め、機能性の改善を図る必要があります。したがってこれまで以上に全職員の結束と努力が必要となります。このような重要な時期に千葉病院病院長という重職を拝命し、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。幸い、副病院長に有床義歯補綴学講座の櫻井 薫教授、歯科保存学講座の中川寛一教授および口腔外科学講座の柴原孝彦教授という有能な諸先生方を迎えることができましたので、皆で一致協力しこの難関に立ち向かっていきたいと考えております。今後、千葉病院発展のため全力を尽くす所存でございますので、関係各位の皆様方のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。

■市川総合病院長就任のご挨拶

安　藤　暢　敏

引き続き市川総合病院の舵取りを担当することになりました安藤でございます。これまでの3年間を振り返ってみますと、2007年に病院長に就任した当時の市川総合病院は、前年に行われた診療報酬3.16%の引き下げの影響もあり2年連続の赤字という財務状況にありました。院長就任挨拶のなかで、財務状況を良くすることは、ただ収益を上げることだけが目的ではなく、医療の質をある水準に保つために、安定した財務状況を確保することが目的である旨お話をしました。まず支出の削減に努め社中一致で収支改善に励んだ結果、市川総合病院の財務状況は同年度末には黒字回復を示し、2008年から採用し

たDPC（包括医療評価）制度の追い風も受け、以後堅調に推移するようになりました。

同時にこの病院をブランド力を持った一流の病院にすることを目標に掲げ、畠 亮前院長、高橋正憲前々院長のご指導により充実したハード、すなわち器の中に入れるヒト、システムなどソフトの強化、充実を考えて参りました。その一貫として2008年には画像配信システムの導入によるフィルムレス化、本年1月から5年振りの新電子カルテシステムへの更新を図り、病院のIT進化が加速しています。同様に2008年に市川総合病院は、東葛南部医療圏をカバーする地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。この重要課題の一つである緩和医療にかかわる緩和ケアチーム、栄養サポートチーム（NST）、呼吸ケアチーム（RCT）などを中心に、多職種がある目的のために職能集団としての力を発揮するチーム医療が整備されつつあります。

このように市川総合病院は「坂の上の雲」当時の日本のように、ひたすら坂を登りつつあります。来春には2回目の病院機能評価更新受審を迎えますが、この受審準備や見直し作業が、坂を上り続ける院内各職域にとって周囲を見回しさらに合理的なリセットに繋がることを期待しています。

■水道橋病院長・法人主事就任のご挨拶

一　戸　達　也

このたび、水道橋病院長と法人主事を拝命いたしました。極めて重要なこれらふたつの職責をしっかりと果たし、本学の更なる発展にわずかでも貢献できるように最大限の努力をして参る所存であります。

水道橋病院は東京歯科大学の伝統の象徴として、水道橋の地で100年以上の歴史を重ねて参りました。そしてこのたびの本学創立120周年を期に、大学本体が千葉校舎から水道橋校舎に移転することとなりました。これからの3年間はまさに正念場の時です。病院長として、水道橋病院の健全な運営のために努力すると同時に、大学移転後の新しい水道橋病院のために必要な改革・改善を実施し、更なる発展をめざして「継承と発展」を実践して参ります。「高品質の医療と顧客の満足」が水道橋病院のキーワードです。顧客とは、病院にとっては患者様や連携先の医療機関であり、大学にとっては学生と保護者、そして同窓の皆様です。すべての顧客に満足していただくために、常に院内の医療環境と教育・研修体制、および院外との連携体制の改善・充実に努めて参ります。

法人主事は学校法人の事務を統括する立場であります。大学の移転という大事業を踏まえて、東京歯科大学全体の将来像を適切に描き、常に正確な情報を迅速に法人理事会にお伝えして学校法人の健全な運営と発展に寄与することが私の責務と考えております。移転の難関を「私学の苦節は厳たり徹れり」に例えれば、これを全教職員が一致団結して乗り越え、「無限のこの道かなたの蒼空」を仰ぐための道筋を法人理事会が示す、そのための下支えこそが法人主事の重要な任務であります。

責任の重大なこれらの大任を同時に果たすことができるか危惧しておりますが、熱田俊之助理事長、金子 譲学長が示される本学の運営方針に則って、与えられた職責を全うしたいと考えております。教職員の皆様のご指導、ご鞭撻とご支援を賜りますようお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

■大学院研究科長・口腔科学研究センター所長就任のご挨拶

井　上　　孝

大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする場所です。医科歯科系大学では、博士となった後に教育、研究、臨床の3本柱の継続が要求されます。私は、この3本柱の基本は研究であると思っています。それは、研究ができれば、学生に教育ができ、そして患者対応もできると思うからです。

その研究の場となる口腔科学研究センターは、東京歯科大学における「研ぎ澄まし究める場所」であり、かつ、水道橋移転という大きな転機に都市型歯科医学の研究所であることが望まれます。トランスレーショナルリサーチを活性化し、新しい医療を開発し、臨床の場で試用し、日常医療へ応用していくまでの一連の研究過程を確立させる研究所が必要だと思います。120年を迎えた東京歯科大学が、「継承と発展」の中で未来歯科医療を推進していくためには、講座制の良いところは踏襲しつつ、歯科のトランスレーショナルリサーチに向かって、医局員が一堂に集まれ、大学院と口科研の有機的融合が必要不可欠と考えます。若手の育成はいつの時代にも最重要な課題です。東京歯科大学口腔科学研究センターに多くの若手が集い、大いに語り、そして日本の歯科界を担う研究者が、日本のみならず世界へ排出されていくことを夢見ています。

「博士である前に歯科医師たれ、歯科医師である前に人間たれ」のような世界を視野に置いた大学院生が育つ、基礎と臨床の懸け橋となる研究環境を作れれば、と思っています。微力ながら、東京歯科大学大学院研究科と口腔科学研究センター発展のために尽くすつもりです。宜しくお願い申し上げます。

■歯科衛生士専門学校長就任のご挨拶

石　井　拓　男

平成22年6月1日より、東京歯科大学歯科衛生士専門学校の第12代校長に就任させて頂くこととなりました。他に類のない、伝統ある本校の校長職がいかに重要な席かは、私なりに十分認識しております。

平成11年5月28日に厚生労働省健康政策局歯科保健課は、「歯科衛生士の資質の向上に関する検討会」意見書を取り纏め公表しました。検討会の委員長は、東京歯科大学副学長の淺井康宏先生でした。この意見書の中に、歯科衛生士教育における修業年限を3年以上とすることが明記されました。当時私は、厚労省の歯科保健課長として検討会の事務を担当させて頂きました。あれから10年以上の年月を費やし、今年の新入生は全国全て3年以上の就業年限で学習することとなりました。その記念の時に、歯科衛生士専門学校の校長職を与えられたことは、はたして天の配剤かと思うしだいであります。

私に課せられた任務は、東京歯科大学の水道橋移転という一大事業の中で、歯科衛生士専門学校の教育能力と環境を損なうことなく推移させることであります。歯科医学教育において、東京歯科大学は際だった成果と評価を誇っております。この教育環境をそのまま、歯科衛生士の教育に活用できていることを自覚し、対外的にも周知していくことが肝要と思います。

わが国において2000年以降、男性の失業率が女性のそれを上回っています。原因は、技術革新等により男性優位の仕事が減り、サービス業

や福祉関連という女性優位の仕事が成長したことにあります。歯科衛生士は、すでに歯科医師を上回る就業者を有し、歯科界における最大職種へと発展しました。国民の健康と福祉に、歯科衛生士がさらなる貢献を果たすよう、教育の場から支援していきたいと思います。

■図書館長就任のご挨拶

松久保　隆

この度、6月1日をもちまして図書館長を拝命いたしました。創立120年の歴史を有する本学には、時を超えて歯科医学発展の過程を鮮明に物語る数々の歴史的な貴重書や貴重史料が図書館・資料室に保管され、閲覧に供されています。最近のICTの活用の普及は目をみはるものがあり、本学図書館においても世界中からの最新の情報が時間に関係なく検索・収集が可能になっています。

本学図書館の業務は、資料の収集、整理および保存などの管理、学生や教員などの利用者への学習・研究のための講習会の実施、研究資料や場の提供、TDC Netの運営と管理、機関リポジトリによる本学学術情報の発信、史料室の管理と運営などがあり、業務の多様化は今後ますます進むものと考えられ、それぞれに適切に対応する必要があります。特に、今後の重要な業務としてICTを活用した本学の教育・研究・臨床領域の歯科医学情報を発信するセンター的な機能があり、これを進めていくつもりでおります。

任期の3年間には水道橋への図書館機能のスムーズな移転とさらなる充実を行わなければなりません。移転後は図書館も千葉病院、水道橋の3校舎、市川総合病院の5つに分散することになりますが、学生、教職員ならびに同窓の先生方など利用者の利便性を第一にサービスの提供を図っていくつもりでおります。優秀で熱意のある図書館職員ならびに図書委員会委員の協力を得て図書館の業務を遂行していきますが、是非、全学の教職員皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

■教務部長就任のご挨拶

河　田　英　司

この度、教務部長を拝命いたしました。4期12年、井出吉信、小田 豊両教授の下で副部長を務めさせていただき、その責任と職務の重大さを人一倍強く認識しております。この12年間は東京歯科大学のみならず、歯科大学を取巻く環境は大きく変化してまいりました。そんな中、本学は医学教育の概念が大きく変わり始め出したのを見て、他の歯科大学に先立ち歯科医学教育カリキュラムの変革を実施してまいりました。全教員のカリキュラム研修への参加。それを受けてGIO、SBOを明示したシラバスの作成。またその電子化、オンライン化。歯科医学の進歩に合わせ、新しい統合講義の設置など、教育ワークショップの開催で全学のコンセンサスを得て早い対応をしてまいりました。PBLの導入に関しても本学にあった導入方法を取り入れるなど両部長のリーダーシップのもと、すすめられてきました。文部科学省の競争的資金の獲得にも積極的に活動し、今ある大学教育・学生支援推進事業の支援を受けて「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成」のプログラムが実施されているものも同様です。

歯科大学にとって厳しい問題が数年前から起きております。歯科医師の過剰問題を理由に合格率が下げられている歯科医師国家試験と歯科

大学受験生人口の減少です。本学は皆様の努力で今は高い国家試験合格率を維持し、受験生も確保することが出来ています。「東京歯科大学は大丈夫」という声が聞こえてきますが、何の根拠もない声です。新入生の偏差値の低下からも伺えるように、新しい教育手法を取り入れ、今の学生に合った教育法を導入するなど、現状を維持するには相当の努力が必要です。知識だけでなく態度についても同じ認識の下に学生を指導していただきたいと思います。教育は一部の教員、職員の努力で維持できるのではなく、東京歯科大学全教職員が同じ認識の下、学生に接していただきたいと思います。

教職員のFD、SD。隣接医学教育カリキュラムの充実・強化など多様な課題がありますが、水道橋移転を考慮し、柴原孝彦、石原和幸、平田創一郎、望月隆二の各教務副部長、菅沼雅文教務課長をはじめとする教務課職員とともに一致協力して職責を全うしたいと考えております。全学の教職員の皆様の一層の御支援とご協力をお願いして就任の挨拶とさせていただきます。

■学生部長就任のご挨拶

佐　藤　　亨

このたび、学生部長を再び拝命することになり、その職務の重大さに改めて身の引き締まる思いでおります。これまで、金子 譲学長の下で3年間学生部長を務めさせていただき、学生と直に接し“生”の声を聞いて参りました。時には学生を叱咤激励し、喝を入れることもしばしばございました。

この3年間で千葉キャンパスは指定区域外禁煙となり、学生への禁煙講義等も功を奏し、喫煙率も26.3％から21.4％と徐々にではありますが、減少傾向にあります。しかしながら、大学全体の中では歯学部学生の喫煙率が最も高いという悲しい現況もあり、今後更に禁煙を強化して参りたく存じます。

また、昨今の風潮を反映して、学生のモラルの欠如も非常に感じております。兎角服装面での乱れは目に余るものがあり、昔から服装は「人となり」の現れと言われてきましたが、ズボンをずり落とし地面に引き摺る姿などは、見るに堪えないものがあります。更には“無気力”や“ふてくされ”など態度の崩れも見受けられ、こうした風潮は心の崩れの象徴でもあるかと存じます。このような素行や言動には、有る程度のプレッシャーやストレスを与え、やかましく言って改めさせることが方策であると思慮します。勿論、服装を正せば直ちに態度が改まるという単純な問題ではないでしょうが、こうした運動が、今の学生には必要不可欠であり、歯科医師を志す者の育成をする身としては最低限の修学指導を今後も続けていく所存であります。

今回の人事において、学生副部長に矢島安朝教授、中村光博教授と共に、新たに新谷誠康教授、阿部伸一准教授を配し、装いも新たに学生の指導に努めると共に、教務部や学年主任、副主任と連携し、万全の体制で学生の指導にあたって参ります。

■法人役員の選任

平成22年5月31日をもって本法人寄附行為規定役職者（以下「規定役職者」という。）が任期満了を迎えるにあたり、法人役員が寄附行為に定めるところにより、つぎのとおり選任された。

寄附行為第8条第1項に規定する理事（学長たる理事　以下「第1項理事」）の選任については、3月16日の第567回講座主任教授会並びに同日開催の第568回全体教授会から金子 譲現学長の推薦を受けて、平成22年3月31日開催の第661回理事会並びに第222回評議員会で慎重審議の結果、満場一致をもって金子現学長の再任が決定された。任期は平成22年6月1日から平成25年5月31日までの3年間となる。

また、薬師寺 仁副学長が定年退職を迎えられることとなり寄附行為の定めにより同時に寄附行為第8条第3項に規定する理事（以下「第3項理事」）も退任されることからその後任が選任された。

平成22年5月29日（土）に開催の第663回理事会並びに第223回評議員会において、現在、寄附行為第8条第2項に規定する理事である井出吉信副学長が同理事を辞任し、改めて第3項理事の後任として選任された。

また同日開催の第663回理事会において、常務理事の業務分掌が下記のとおり決定した。

なお井出理事の任期は、現行理事の残任期間である平成22年6月1日から平成23年5月31日までとなる。

記

常務理事	業務分掌
熱　田　俊之助　理事長	総　括　・　校　友
金　子　　譲　理　事	学務・人事・財務
井　出　吉　信　理　事	建　設　・　庶　務

金子　　譲　理事の略歴

昭和14年　2月　8日生
昭和39年　3月　東京歯科大学卒業
昭和39年　4月　東京歯科大学大学院歯学研究科入学（口腔外科学専攻）
昭和39年　5月　第35回歯科医師国家試験合格
昭和41年　3月　歯科医籍登録　第53719号
昭和43年　3月　東京歯科大学大学院歯学研究科修了 学位受領（歯学博士）東京歯科大学 第92号
昭和43年　4月　東京歯科大学助手 歯科麻酔学講座
昭和43年12月　東京大学医学部麻酔学教室に内地留学
昭和45年　4月　東京歯科大学講師 歯科麻酔学講座
昭和45年　7月　神奈川県立こども医療センター非常勤医麻酔科
昭和48年　4月　東京歯科大学助教授　歯科麻酔学講座
昭和50年　5月　日本歯科麻酔学会認定医取得（第27号）
昭和56年　3月　学命により海外研修
昭和56年　4月　フロリダ大学歯学部客員助教授
昭和61年　4月　山形大学医学部非常勤講師
昭和61年　7月　国際協力事業団より専門家(歯科麻酔学)としてインドネシア国バジャジャラン大学に派遣される
昭和62年　7月　東京歯科大学教授 歯科麻酔学講座
平成元年　6月　東京歯科大学　歯科麻酔科部長
平成 3年　1月　東京歯科大学 歯科麻酔学講座主任
平成 6年　6月　日本歯科麻酔学会指導医取得（第12号）
平成 7年　6月　東京歯科大学大学院 歯学研究科長
平成10年　4月　慶應義塾大学医学部非常勤講師（麻酔科）
平成10年　2月　学校法人東京歯科大学　評議員
平成10年　6月　東京歯科大学水道橋病院長
平成11年　7月　学校法人東京歯科大学　法人主事
平成14年　3月　東京歯科大学　副学長
平成15年　2月　日本障害者歯科学会認定医取得（第6号）
平成15年　2月　日本障害者歯科学会指導医取得（第6号）
平成16年　6月　東京歯科大学　学長
学校法人東京歯科大学理事・常務理事（学務・人事担当）
平成18年10月　国際歯科麻酔学連合会長
平成19年　6月　東京歯科大学　学長
学校法人東京歯科大学理事・常務理事（学務・人事担当）
平成20年　4月　口腔科学研究センター所長
平成20年　6月　学校法人東京歯科大学 理事長代行
学校法人東京歯科大学 常務理事（総括・学務・人事担当）
平成20年　8月　学校法人東京歯科大学　常務理事（学務及び人事担当）
平成22年　6月　東京歯科大学　学長
学校法人東京歯科大学理事・常務理事（学務・人事・財務担当）

■副学長退任のご挨拶

薬師寺　仁

平成22年5月31日をもって、任期満了に伴い副学長および学校法人理事の職を退任いたしました。平成16年6月に副学長・法人理事を拝命以来2期6年間、大過なく職責を全うできましたことは、偏に故井上 裕前理事長、熱田俊之助理事長ならびに金子 譲学長をはじめ法人役員の方々のご信任、および教職員各位の絶大なご協力・ご支援があったればこそと、心から感謝申し上げます。

顧みますと昭和46年大学院修了後、小児歯科学講座の講師を拝命以来39年が経過しました。この間、小児歯科学教育、小児歯科臨床に全力を傾注するとともに、歯科衛生士専門学校の主事（現副校長）としてカリキュラムの全面改訂と千葉校舎への移転、そして校長の際には教育年限の3年制への移行と、多くの貴重な経験を積むことができました。特に副学長職2期目のこの3年間は、本学の水道橋回帰に向けての諸準備、さらには創立120周年事業の準備と実施という平常時以上の業務の一翼を担うことができましたことは、大変幸せなことと存じております。

また、前後12年にわたる歯科医師国家試験の出題委員を務めさせていただき、現在、試験問題の評価委員を務めており、2年後の任期満了までその職を全うしたいと考えております。引き続き、教職員の皆様のご支援をいただければ幸いと存じます。

英国の海軍提督Horatio Nelsonは、トラファルガー海戦終了時に“Thank God, I have done my duty”との言葉を遺しました。退任にあたっての私の心境であります。また、Nelson提督は、海戦劈頭“England Expects That Every Man Will Do His Duty”との信号旗を主檣に繋留しています。“England”を“Tokyo Dental College”に置き換えることができます。本学120有余年の歴史を踏まえ、再来年の水道橋新校舎での教育開始に照準をあわせ、『継承と発展』を合言葉に本学の更なる発展に向かって教職員の方々一丸となって邁進されますことを祈念し、退任のご挨拶といたします。

略　歴

学歴

昭和36年 3月 私立関東学院六浦高等学校卒業
昭和36年 4月 東京歯科大学入学
昭和42年 3月 東京歯科大学卒業
昭和42年 5月 東京歯科大学大学院歯学研究科（小児歯科学専攻）入学
昭和46年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
昭和46年 4月 歯学博士の学位受領（東京歯科大学）

資格･免許等

昭和42年 4月 第41回歯科医師国家試験合格
昭和42年 5月 歯科医籍登録　第55050号
昭和63年 5月 日本小児歯科学会認定医（ 第57号 ）
平成元年 4月 日本小児歯科学会研修指導医（ 第37号）
平成 5年 7月 厚生省外国人臨床修練制度による臨床修練指導歯科医（ 第172号）

職歴等

昭和46年 5月 東京歯科大学小児歯科学講座講師
昭和53年 4月 東京歯科大学小児歯科学講座助教授
昭和61年 6月 東京歯科大学歯科衛生士専門学校主事（平成元年5月）
平成元年 4月 東京歯科大学小児歯科学講座教授
平成 5年 7月 歯科医師試験委員（平成9年6月）
平成10年 4月 東京歯科大学小児歯科学講座主任教授（平成20年3月）
平成10年11月 東京都歯科技工士試験委員会委員（平成12年3月）
平成10年12月 千葉県歯科保健医療協議会委員（平成12年11月）
平成12年 7月 歯科医師試験委員（各論Ⅰ幹事委員）（平成14年6月）
平成12年11月 東京都歯科技工士試験委員会委員長（平成14年3月）
平成12年12月 千葉県歯科保健医療協議会委員（平成14年11月）
平成13年 3月 医道審議会専門委員 歯科医師分科会員（平成21年3月）
平成13年 6月 東京歯科大学歯科衛生士専門学校校長（平成16年5月）
学校法人東京歯科大学評議員（平成23年3月）
平成14年 7月 歯科医師試験委員（各論Ⅰ幹事委員）（平成16年6月）
平成15年 4月 医道審議会専門委員 歯科医師分科会員（平成21年3月）
平成16年 6月 東京歯科大学副学長（平成19年5月）
学校法人東京歯科大学常務理事（平成19年5月）
平成16年 7月 歯科医師試験委員（医療総論II幹事委員）（平成18年6月）
平成18年 7月 歯科医師試験委員（平成20年6月）（第100回試験副委員長）
平成19年 6月 東京歯科大学副学長 再任（平成22年5月）
学校法人東京歯科大学常務理事再任（平成22年5月）
平成19年 7月 歯科医師試験委員（平成20年6月）（第101回試験委員長）
平成21年 5月 歯科医師試験委員（平成23年5月）
平成22年 3月 医道審議会専門委員 歯科医師分科会員（平成24年2月）
平成22年 5月 東京歯科大学副学長の任期満了により定年退職

賞罰

平成19年 7月 日本小児歯科学会学会賞
平成22年 1月 日本歯科医学会会長賞

■水道橋病院長退任のご挨拶

柿　澤　　卓

永きにわたり伝統ある本学に奉職させて頂き、この度定年に伴い大過なく病院長を退任できましたことは、偏に諸先生ならびにご関係の方々のご支援の賜と、衷心より感謝申し上げます。

その間を振り返りますと、第一の出来事は何と申しましても昭和56年の大学の千葉移転です。私は千葉に赴任することもなく、水道橋の主のような存在で今日に至っておりますが、移転後に残された旧病院は、施設面・機能面いずれも厳しい状況で、全身麻酔は全くできず、入院も週数日しかできないという極めて変則的なものでした。

そのような状況が暫く続きましたが、平成2年にTDCビルが落成し、新たに水道橋病院が開設されました。新しい病院は最新の設備が整えられ、現在のような体制でスタートしました。新病院では、今まで出来なかった全麻手術が普通にできるようになり、私にとって大変な喜びでした。その後は、首都圏同窓を始めとする紹介医の先生方との病診連携を充実させ、臨床を主体に励んで参りました。

その後、平成10年に金子 譲病院長の下で副院長に、更に平成16年には水道橋病院長に就任させて頂きました。また平成17年には水道橋病院を口腔健康臨床科学講座という一つの講座に昇格させて頂き、講座主任を務めさせて頂いたことは、身に余る光栄と思っております。病院長としては、開業歯科医師のバックボーンとなるべく「基幹的歯科病院構想」をかかげ、病院の機能機構改革を進めながら病院・講座の運営に邁進でき、この度定年を迎えることになりました。

大学が創立120周年を迎え、水道橋への回帰が本格的に動き始めた今年、奇しくも定年を迎えたことは、水道橋人として生きた私にとって、何か大きな感慨を覚えざるを得ません。今後、大学は厳しい流れに向かって新しい時代に船出するわけですが、その方向が水道橋にあることに、何か報われるものを感じつつ去ることが出来ます。

略　歴

学歴

昭和38年 3月 獨協学園高等学校卒業
昭和38年 4月 東京歯科大学入学
昭和44年 3月 東京歯科大学卒業
昭和44年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科（口腔外科学専攻）入学
昭和46年 5月 東京大学医科学研究所免疫学教室研究生（昭和46年12月まで）
昭和48年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科（口腔外科学専攻）修了
昭和48年 3月 歯学博士の学位受領（東京歯科大学）

資格・免許等

昭和44年 5月 第45回歯科医師国家試験合格
昭和44年 9月 歯科医籍登録 第57789号
昭和55年 8月 日本口腔外科学会認定医制度による認定医（第21号）
昭和61年 9月 日本口腔外科学会認定医制度による指導医（第213号）
平成14年10月（社）日本口腔外科学会専門医制度による専門医（第21号）に変更

職歴および研究歴

昭和48年 8月 東京歯科大学口腔外科学第1講座　助手（昭和50年3月まで）
昭和50年 4月 東京歯科大学口腔外科学第1講座　講師（昭和57年3月まで）
昭和54年 4月 国立東京第二病院歯科口腔外科へ出向（昭和55年3月まで）
昭和57年 4月 東京歯科大学口腔外科学第1講座　助教授（平成11年3月まで）
昭和58年 4月 学命により西独口腔外科医療視察（昭和58年8月まで）
平成11年 4月 東京歯科大学水道橋病院口腔外科教授
平成17年 4月 東京歯科大学口腔健康臨床科学講座（口腔外科学分野）教授

学内における経歴等

昭和56年 4月 東京歯科大学口腔外科部医局長（昭和57年3月まで）
東京歯科大学将棋部部長
昭和57年 4月 東京歯科大学水道橋病院口腔外科医局長（昭和59年3月まで）
平成元年 6月 東京歯科大学水道橋病院口腔外科主任（平成16年5月まで）
東京歯科大学水道橋病院臨床検査室長
平成 6年 4月 東京歯科大学水道橋病院教育主任（平成10年5月まで）
平成 7年 6月 東京歯科大学水道橋病院図書分館分館長（平成10年5月まで）
平成10年 6月 東京歯科大学水道橋病院副病院長（平成16年5月まで）
平成16年 6月 東京歯科大学水道橋病院病院長
平成16年 6月 東京歯科大学水道橋病院口腔外科科長
平成17年 4月 東京歯科大学口腔健康臨床科学講座主任

学会および社会における活動

（学会活動）

昭和44年 4月 東京歯科大学学会会員
昭和45年 5月 日本口腔外科学会会員
昭和45年 6月 日本口腔科学会会員
昭和52年 7月 日本頭頸部腫瘍学会会員
昭和57年 3月 日本顎変形症学会会員
昭和57年 4月 東京歯科大学学会評議員
昭和57年 7月 日本歯科薬物療法学会会員

昭和57年10月　日本障害者歯科学会会員
昭和58年12月　日本口蓋裂学会会員
昭和59年　1月　日本口腔腫瘍学会会員
昭和61年　1月　日本老年歯科学会会員
平成　3年　4月　日本障害者歯科学会編集委員
（平成8年12月まで）
平成　4年　2月　日本有病者歯科学会会員
平成　5年　9月　日本癌学会会員
平成　5年11月　日本顎顔面臨床生体材料研究会会員
平成　5年11月　日本顎顔面臨床生体材料研究会評議員
平成　8年　5月　日本癌治療学会会員
平成　9年　1月　日本障害者歯科学会査読委員
平成　9年　1月　International Assosiation of Oral Maxillofacial Surgeons会員
平成11年　2月　日本HIV歯科医療研究会理事
平成12年　4月　日本歯科医学教育学会
平成14年　4月　日本顎変形症学会評議員
平成16年10月　日本口腔粘膜学会会員

（社会における活動）
平成　6年　4月　厚生省　HIV感染者発症予防治療のための研究班・歯科口腔外科小委員会委員
（平成10年3月まで）
平成　8年　1月　保健同人社“笑顔でヘルシーダイアル”指導医
平成　9年　7月　東京都“医療事故時の一般医療機関とエイズ診療拠点病院との連携体性検討会”委員
（平成9年12月まで）
平成10年12月　東京都エイズ協力病院連絡協議会委員
平成11年　1月　日本歯科医療保険情報開発研究所アポロン監修委員
（平成13年3月まで）
平成12年　4月　東京都エイズ診療従事者研修会事業委託
平成12年　6月　東京都歯科医師会疑義解釈苦情処理委員会常任委員
平成12年　7月　東京都HIV歯科医療ネットワーク推進委員会委員長
（平成13年3月まで）
平成13年　5月　東京都エイズ協力歯科診療所運営協議会委員
平成13年　5月　東京都エイズ協力歯科診療所運営協議会小委員会委員

その他
（非常勤講師等）
昭和57年　1月　神奈川県立こども医療センター歯科非常勤
（平成16年8月まで）
昭和60年　4月　神奈川県立看護専門学校非常勤講師
（平成7年3月まで）

学内ニュース

■名誉教授の推薦

平成22年5月18日（火）の第571回教授会において、本学名誉教授称号授与規程に基づき、本年5月31日付で役職任期満了により定年退職される薬師寺 仁教授（副学長）、柿澤 卓教授（水道橋病院長）、7月31日付で退職される安達 康教授を名誉教授に推薦することが了承された。これを受け、平成22年5月29日（土）開催の第663回理事会において、平成22年6月1日付で薬師寺先生、柿澤先生、平成22年8月1日付で安達先生の推薦が承認された。

■平成22年度修学指導関係教職員

平成22年度前期の修学指導関係教職員は、金子 譲学長の再任に伴う新学務役職者の発令を受け、6月1日付けで以下の通りとなった。

学生部長	佐藤　亨
学生副部長	矢島安朝
〃	中村光博
〃	新谷誠康
〃	阿部伸一
学生課長	小倉　等
教務部長	河田英司
教務副部長	柴原孝彦
教務副部長	石原和幸
〃	望月隆二
〃	平田創一郎
教務課長	菅沼雅文

学年主任・クラス主任・副主任

第1学年主任	森田雅義	准教授
Aクラス主任	森田雅義	准教授
副主任	上松博子	講師
Bクラス主任	加藤哲男	准教授
副主任	杉原直樹	准教授
第2学年主任	澤木康平	准教授
副主任	森口美津子	講師
〃	君塚隆太	講師
〃	岩沼　治	助教
第3学年主任	東　俊文	教授
副主任	松永　智	講師
〃	西井　康	助教
〃	柴山和子	助教
第4学年主任	石原和幸	教授
副主任	薬師寺　孝	助教
〃	田中倫子	助教
〃	稲垣　覚	助教
第5学年主任	末石研二	教授
副主任	森永一喜	講師

副主任　澁川義幸　講師
〃　西堀陽平　助教
〃　大久保真衣　助教
〃　野本俊太郎　助教
〃　石井武展　助教
第6学年主任　佐藤亨　教授
副主任　阿部伸一　准教授
〃　上田貴之　准教授
〃　笠原正貴　講師
〃　西川慶一　助教
〃　澁井武夫　助教
〃　中澤妙衣子　助教
既卒者主任　矢島安朝　教授
副主任　村松敬　講師
〃　中野洋子　講師
〃　伊藤太一　講師
〃　松浦信幸　助教

■第306回大学院セミナー開催

平成22年6月8日（火）午後6時より千葉校舎第2教室において、第306回大学院セミナーが開催された。今回は名古屋大学大学院医学系研究科頭頚部感覚器外科学講座の上田 実教授を講師にお迎えし、「加速する体性幹細胞による再生医療」と題した講演を伺った。本セミナーは、大学院学生会会員のアンケートにより実現したもので、大学院学生および医局員を合わせ総勢80余名の活発なセミナーとなった。上田教授はご講演の中で、iPS細胞やES細胞は腫瘍化や倫理問題が未解決で臨床応用にはまだ時間を要する。現実的には、本来身体に存在している体性幹細胞の応用で、教授ご自身が実際に研究なされトランスレーショナルリサーチから医療応用に至った培養表皮シートの紹介を皮切りに、歯髄組織由来幹細胞を用いて歯科領域のみならず、神経再生などへの応用の可能性を話され、聴衆一同に大きな感銘を与えた。1時間の講演後、質疑は30分に及び、大学院生にとっても新たな研究へ示唆を与えて頂き、有意義なセミナーであった。

講演される上田教授：平成22年6月8日（火）、千葉校舎第2教室

■平成22年度学生健康診断実施

平成22年度学生健康診断が5月25日（火）から6月10日（木）までの日程で、第1学年から第6学年までの学生を対象に実施された。本年は、尿検査を除いて過去10年で一番の高受診率であった。

■第307回大学院セミナー開催

平成22年6月15日（火）午後6時より千葉校舎第2教室において、第307回大学院セミナーが開催された。今回は東北大学大学院歯学研究科小児発達歯科学分野の福本 敏教授を講師にお迎えして「歯のかたちづくりの分子生物学」と題した講演を伺った。

歯の再生を行う為に必要な、歯の形態形成メカニズムの解明を行うにあたって、先生が明らかにされてきた、歯胚の大きさや咬頭の形成に必須の分子（ラミニンα5）、エナメル芽細胞の分化とその機能維持に関わる分子（アメロブラスチン）、歯の数や頬舌幅を決定する分子メカニズム（ED1遺伝子が関与する3つの経路）、新規の歯特異的遺伝子エピプロフィンについて様々な実験の経緯，結果、考察を通じて解説いただいた。また、歯の再生における細胞の供給源としての乳歯由来の歯髄細胞が持つ可能性について、未公開データを交えご紹介いただき、内容の濃い有意義な1時間のセミナーであった。

講演される福本教授：平成22年6月15日（火）、千葉校舎第2教室

■平成22年度実験動物供養祭

平成22年6月18日（金）午前10時40分より、千葉校舎基礎棟1階の第2ラウンジにおいて平成22年度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、廣徳院住職の読経に始まり、井出吉信副学長が祭文を奉読された後、歯科医学の教育・研究に生命を捧げた動物諸霊に対し哀悼と感謝の意を込め、教職員、大学院生、臨床研修歯科医、第3学年学生全員が順次焼香を行い、滞りなく終了した。

祭文を奉読する井出副学長：平成22年6月18日（金）、千葉校舎基礎棟第2ラウンジ

■父兄会定時総会・修学指導方針説明会開催

平成22年度父兄会定時総会が6月19日（土）に、千葉校舎講堂において開催された。朝から強風で荒れ模様の天候であったが、総会には学生総数の6割近くの保護者の出席を頂き午後12時40分に開会した。

総会は、本年4月に新会長に就任した鈴木千枝子父兄会会長が新任の挨拶を織り交ぜた開会の辞から始まり、金子 譲名誉会長（学長）から挨拶を頂いた後、第6学年保護者の高原利幸氏が議長に選出され、報告・審議事項に移った。

平成21年度会計収支決算、平成22年度事業計画、会計収支予算案などの議案が審議され、いずれも提案どおり可決された。引き続いて父兄会役員の任期満了に伴う改選の審議に移り、慣例に従って選考委員会が設置され、同委員会の推薦を受けて平成22年度父兄会役員が下記のとおり選任された。（業務分担はつぎのとおり）

会　　長：鈴木千枝子
副　会　長：藤関雅嗣　臼田　準　鈴木伸宏
常務理事(庶務)：鳩貝尚志　小林一公
常務理事(会計)：佐藤浩一　齋藤　守
常務理事(貸与)：荒川幸雄
常務理事(傷害)：秋草正美
常務理事(広報)：中村　隆　森田正純　宮吉久美
理　　事：寺本信三　小山　亨　齋藤　正
川崎輝子　橋本東児　山本明彦
荻原俊美　髙崎一郎　坂入道子
石井俊昭　福田紳一　中川雅晴
石　和久　松崎英雄
小林(武笠)容子
監　　事：西宮　寛　東郷幹夫

なお、当日は総会に先立ち、午前11時30分より厚生棟1階第一食堂において昼食会を兼ねた「全教授および修学指導関係者と保護者との懇談会」が和やかな雰囲気の中で行われ、父兄会定時総会終了後は、午後2時より保護者を対象にした大学主催による修学指導方針説明会が開催され、井出吉信副学長から学生指導の基本方針と水道橋校舎移転に関すること、河田英司教務部長から勉学に関する指導指針、佐藤 亨学生部長から学生生活に関する指導方針について、それぞれの立場から懇切な説明が行われた。次いで午後3時30分より各学年の学年主任あるいはクラス主任が学年別に個々の現状、修学上の注意事項に関する詳細な説明が行なわれた。さらに説明終了後、出席保護者と学年主任・クラス主任との個別面談が実施された。

総会に先立ち挨拶を述べられる鈴木会長：平成22年6月19日（土）、千葉校舎講堂

■午後のリサイタル

平成22年6月19日（土）午後3時より市川総合病院外来1階待合ロビーにて第144回の午後のリサイタルが開催された。今回は市川市内の「ウクレ

レクラブ・フラダンスチーム・ハワイアンバンド」の方々の初めての出演で、梅雨の鬱陶しさを吹き飛ばす楽しいひと時となった。

午後のリサイタルは、外来1階待合ロビーにピアノの寄贈されたことをきっかけに、平成8年を初回にピアノリサイタルとして開催している。以来、毎月第3土曜日午後3時には各病棟から車椅子や時にはベッドに臥床した患者さんとご家族が1階待合ロビーに集まり演奏に耳を傾けている。演奏だけでなく楽器紹介やお話も楽しく、患者さんにマイクが向けられることもあり、アンコールの声が上がったり、音楽に合わせて手を叩いたり、一緒に歌ったりする患者さんの楽しそうな表情に多くの出演者の方々は「反対に勇気づけられました」と言われます。また、ピアノ演奏のほかにもコーラス・マンドリン・ハンドベル・ジャズバンド・三味線・歌謡曲・東京歯科大学の管弦学部と多様な出演者に支えられ144回ものリサイタルを開催している。

楽しい雰囲気で行われた午後のリサイタル：平成22年6月19日（土）、市川総合病院1階外来待合ホール

■恩田健志助教　日本口腔科学会で学会賞優秀発表賞を受賞

平成22年6月24日（木）、25日（金）に札幌プリンスホテル国際館パミールで行われた第64回NPO法人日本口腔科学会学術集会で、口腔外科学講座の恩田健志助教が学会賞優秀発表賞を受賞した。恩田助教は平成19年4月から平成20年3月までの間、独立行政法人放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院にて頭頸部悪性腫瘍に対する重粒子線治療を行ってきた。重粒子線治療は、固形癌に対する最新の治療法であり、手術不能な進行症例に対しても高い局所制御率を示し、注目を集めている治療法である。重粒子線治療の晩期反応として通常のエックス線治療（リニアック）と同様に顎骨骨壊死または、腐骨の形成が発現することがある。今回は「頭頸部悪性腫瘍に対する炭素イオン線治療後の腐骨形成に関するリスクファクター」と題し、腫瘍が顎骨内へ浸潤している症例、照射範囲内に含まれる歯の数が多い症例ほど重粒子線治療後に腐骨の形成が発現しやすい傾向があることを報告した。これは、腫瘍浸潤のある部位の骨が、再石灰化や粘膜の再生の遅延を起こし口腔内に骨の露出がおこり感染を来たしていること、照射範囲内の歯の数が多い程、歯周組織からの感染の機会が増えることなどが理由として考えられる。多くの参加者の興味を集め、多義にわたる質問が行われた。今後は、線量（GyE）と腐骨との関係を明らかにし、重粒子線治療後の腐骨形成を確実に予防することを目指す。

受賞した恩田助教：平成22年6月25日（金）、札幌プリンスホテル

■第95回歯科医学教育セミナー

平成22年6月28日（月）午後6時より千葉校舎第2教室において、第95回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「私の授業の工夫」と題し、口腔外科学講座 池田千早助教、病理学講座 橋本貞充准教授、物理学研究室 望月隆二准教授から日ごろの授業で工夫している内容について説明が行われた。

池田助教や橋本准教授は、スライド上での画像や動画など視覚素材の効果的な活用、講義テキストを穴埋め形式にするといった手法を紹介した。講義では何を伝えたいのかを明確にしたり、身近で具体的なものを挙げたり、実体験を踏まえての説明が効果的とのことだった。また、多人数講義であっても、教員と学生一対一のコミュニケーションが基本であり、同じ目線で伝

えること、学生に自信を失わせない配慮が必要ではないかとのことであった。望月准教授からは、新入生基礎理解度テストの結果分析を踏まえた上で、「わかる」授業のための教材研究、演習や補習、質問に対する個別対応を行い、さらに学生の声を収集し、授業改善に取り組んでいる旨の説明があった。

各教員共、学生の意欲を上げるため、理解度を深めるための工夫が施されており、共通して学生主体の授業を目指しているとのことであった。

最後に、河田英司教務部長より授業参観等を積極的に実施し、さらに、授業の質の向上を目指していく旨説明があった。

当日は120名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ、大変有意義なセミナーとなった。

説明する池田助教：平成22年6月28日（月）、千葉校舎第2教室

■第308回大学院セミナー開催

平成22年6月29日(火)午後6時より千葉校舎第2教室において、第308回大学院セミナーが開催された。

今回は、歯科における摂食・嚥下リハビリテーションの発展に大きく貢献されている昭和大学歯学部口腔衛生学教室教授の向井美恵先生を講師にお迎えして、「摂食・嚥下リハビリテーションの将来展望」と題した講演を伺った。向井先生は小児歯科医でもいらっしゃるので、発達的な観点からなされた多くの研究を紹介いただいた。中でも3次元的にみた咽頭、喉頭形態の成長変化、食物の窒息に関わる研究、経口摂取頻度が中枢の発達に及ぼす影響などは大変興味深く拝聴した。

研究以外にも、昭和大学関連全病院に展開する口腔ケアセンターの役割について、医療系総合大学の特色を生かした卒前病棟実習のお話を賜り、参加者からの質問も多かった。

大学病院の将来像を考える上でも貴重な90分にわたるセミナーであった。

講演される向井教授：平成22年6月29日(火)、千葉校舎第2教室

■平成22年度第2回水道橋病院教職員研修会開催

平成22年6月29日(火)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成22年度第2回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は医薬品・医療機器の安全管理に関する研修で、医薬品に関しては株式会社ジーシーの顧客担当アソシエイト島田 聡氏より「グルタラール製剤（ハイブリッド）について」、医療機器はフクダ電子東京販売株式会社の関 択也氏より「第5次医療法改正と安全の確保」についてそれぞれ講演していただいた。

初めに島田氏より、ハイブリット20%液についての正しい使用法について確認の説明があり、続いて消毒の対象となる歯科用の器具、使用上の注意などについて説明を受けた。そして実際の使用にあたっての説明と注意、それぞれの状況における浸漬時間とその効果、交換の頻度などについて説明をうけた。これらについては一部、本病院において若干解釈が違った部分もあったようで、特に普段から消毒に携わっている衛生士に有意義な講演であった。

次の関氏の講演では、まず医療法と薬事法の改正から医療安全の確保がどのような流れで謳われるようになったか、そしてそれに対して医療従事者サイドでの当初の戸惑いが示された。特に第5次医療法改正では「医療の安全」に焦点が当てられ、その中の1つが「医療機器の保守点検・安全使用に関する体制」であり、4つの項目（①医療機器安全管理責任者の設置、②職員研修の実施、③

保守点検計画の策定と実施、④情報収集）に分けられた。そして厚生労働大臣が指定する特定保守管理医療機器は1,186品目にのぼり、これらは随時増加しているという。医療機器はほとんどがこれに含まれることから、すべてを行うことはなかなか難しいのが現状で、高クラスの危機から優先順位をつけて実施するのであるが、その線引きはユーザーが自己責任において行わなければならないという厳しい現状が示された。実際には医療安全責任者が医療機器の保守点検計画を作り実施、点検記録を残してゆくことである。そのうえで、安全使用情報の収集と改善方策の実施を行っていかなければならない。日常点検は、点検に必要な機種・内容を添付文書に従って決定し、使用前・中・後の点検を行い、記録をとることである。そして危機に関するインシデント・アクシデント情報を報告し、メーカーなどからの情報を部門内で共有して徹底することが肝要とのことであった。

医療機器安全に関しても日々変わっており、普段からの実施はもとより、新しい情報への関心の必要性を痛感させられた研修会であった。

講演される島田氏：平成22年6月29日（火）、水道橋校舎血脇記念ホール

教職員への移転関係報告（5）

平成22年6月23日

教職員　各位

理事長　熱田　俊之助
学　長　金子　　譲

配付した「基本設計」に対するご意見の募集と締め切り

大学の水道橋移転計画については、昨年11月17日開催の第562回講座主任教授会、同19日開催の第659回理事会にて基本計画について承認を受け、基本設計を進めて参りました。今般、取りまとめた基本設計につきまして、6月15日開催の第572回講座主任教授会において平面図、立面図を配付の上、今月末までにご意見を募集している旨お知らせいたします。なお、主任教授会メンバーには持ち帰っていただいた図面については企画・調査室にて公開しておりますので、閲覧をご希望される方は企画・調査室までご足労願います。

また、基本設計に基づくパース（完成予想図）を管理棟2階、第1会議室前に展示しておりますのでご一覧ください。

今後もお知らせについてはポータルサイトを通じて随時行いたいと考えております。教職員各位におかれましては、本計画へのご理解・ご協力をお願いいたします。

トピックス

■金子 譲学長　台北医学大学創立50周年記念式典に出席

本学と姉妹校関係にある台北医学大学が創立50周年を迎え、平成22年6月1日(火)に行われた記念式典に金子 譲学長が出席した。

式典は台北医学大学の大講堂で行われ、大学役職者によるテープカットで始まり、続いて同大学李 祖徳理事長の挨拶があった。台北医学大学口腔医学院の多くの姉妹校を代表してペンシルベニア大学、UCLA、東京歯科大学の3校の代表者が祝辞を述べ、金子学長は本学と台北医学大学の歴史的な関係や、台湾での学会設立への本学の寄与などを織り込んだ祝辞を述べた。台湾各界からの著名人や姉妹校関係の招待者の紹介、台北医学大学の歴史の紹介の後、主賓である中華民国の馬 英九総統が祝辞を述べた。続いて名誉学位の授与、寄附者の紹介が行われ、邱 文達学長の挨拶の後、華やかなパフォーマンス等も行われた記念式典が閉会した。この記念式典前々日には同窓を中心とした祝賀会が、また前日には来賓を中心とした記念晩餐会が開催され、金子学長はいずれも出席した。

台北医学大学大学役職者によるテープカット：平成22年6月1日（火）、台北医学大学大講堂

台北医学大学創立者の一人　胡 水旺名誉教授（100歳）と金子学長：平成22年6月1日（火）、台北医学大学大講堂

■岡田玲奈大学院生　マニラ在留邦人のための歯科相談会参加報告

このたび平成22年6月3日(木)から7日(月)まで、(財)海外邦人医療基金（以下JOMF）の主催するフィリピン、マニラでの巡回健康相談事業に参加いたしました。JOMFは1984年に外務省と厚生労働省の指導のもと、海外に長期滞在する邦人の医療不安解消のために設立された財団法人です。海外での邦人向け診療所の運営や医療情報の収集、提供のほか、小児科と歯科の分野で専門科目医療相談をマニラ、クアラルンプールなど世界の8都市で展開しています。この歯科業務に立ち上げから携わってこられた日中友好病院北京天衛診療所の田中健一先生のご紹介のもと、担当者による選考を経て、今回私が参加する機会をいただきました。

フィリピンのマニラ日本人会診療所にて3日間歯科相談会を、また最終日には現地の日本人学校

歯科相談の様子：平成22年6月6日（日）、マニラ日本人会診療所

小学校1年生に対するブラッシング指導の様子：平成22年6月7日（月）、マニラ日本人学校

で1年生と5年生を対象にブラッシング指導を行いました。医師団は小児科医師1名、歯科医師2名で、1人当たり1日20～25名を担当しました。口腔衛生状態は日本における検診と大差はありませんでしたが、患者の多くは現地の歯科医療に対する不安を抱えており、年に1度のこの歯科検診に対する期待の大きさを実感しました。

日本企業の海外進出が目覚ましい昨今、国外に長期滞在する邦人はすでに100万人を超えています。これらの人々は異なる医療制度や考え方、不十分な医療水準、言語の違いなどで苦労されています。海外で生活していても母国語で医療や相談が受けられるという安心は、今後日本がさらなる国際化を遂げていくうえで必要だと感じました。

最後に、このような事業に参加する機会を与えてくださいました金子 譲学長先生、歯科麻酔学講座一戸達也教授、（財）JOMF小山 明常務、田中健一先生ならびに関係の方々に御礼申し上げます。（歯科麻酔学講座大学院1年 岡田玲奈）

■創立120周年記念事業に伴う父兄会から大学への寄付金について

去る6月19日（土）千葉校舎講堂において、「平成22年度父兄会定時総会」が開会された。当日は、学生総数の6割近くの保護者が出席、盛況のうちに閉会した。

また、今回は「創立120周年記念事業に伴う父兄会から大学への寄付金案」が議案として上程され、鈴木千枝子父兄会長より保護者に趣旨説明を行い、父兄会特別事業積立金より2,500万円を大学に寄付することが決議された。

総会終了後には、鈴木父兄会長より、金子 譲学長へ寄付金の目録が寄贈された。

なお、当寄付金は、水道橋校舎への移転後に施設設備や備品等の費用として充てられる予定である。

金子学長に鈴木父兄会長から目録の贈呈：平成22年6月19日（土）、千葉校舎講堂

学生会ニュース

■春季大会　成績

○硬式野球部
　関東歯学部リーグ　春季大会　優勝

○男子バレーボール部
　関東医歯薬　春季リーグ　一部優勝（秋春連覇）

○卓球部
　第六回関東歯科学生大会女子団体優勝

○ボウリング部
　関東医科歯科春季リーグ　優勝

○軟式庭球部
　春季関東歯科大学ソフトテニス大会
　女子団体優勝、男子団体準優勝

関東医歯薬リーグに敵なし、秋春連覇のバレーボール部：平成22年6月15日（火）、千葉校舎体育館

個人戦女子　貫禄の優勝　軟式庭球部　池田・大山ペア：平成22年6月20日（日）、白子町テニスコート

■演劇部・「幕の内」 第14回公演

東京歯科大学演劇部・「幕の内」第14回公演が、平成22年6月26日(土)と27日(日)の午後3時から、千葉校舎講堂でおこなわれた。演目はオリジナル作品の「チェリー」。原案は演劇部の新進シナリオライター・清水博之。演出は幕の内の海老沢朋宏、笠原正彰、栗田容輔。不良ロボットのリョウには森田純晴、ヒロインの令嬢ナギには斉藤真梨子。

ポスターに付けられたメッセージには、「初めてみた満開の桜。あれからどれくらい変われたんだろう?」とあった。梶井基次郎の「桜の樹の下には・・・」のイメージとどこか繋がるらしい。作者は、初めて書いた直球ラブ・コメディーというが、テンポのある場面展開とちりばめられた笑い、そして緊張感のある美しいラストに、思わず引き込まれた。

ギターを抱えた無職の不良ロボットが、ひとりぼっちの病弱な令嬢の家庭教師として雇われることからものがたりは始まり、いつのまにか、機械と人間、二人が強い思いで結ばれていく。しかし、彼（ロボット）のプログラムの中に悪質なウイルスが侵入していることが分かり・・・。彼の死、すなわち、プログラムのリセットをとおして、人間の意識とは何か、そして、いのちとは何なのかを、観客ひとり一人に問いかける作品に仕上がっていた。

今回の公演では、不良ロボットのリョウを演じた森田の演技が光っており、それを個性的な先輩・後輩からなる役者・演出家たちが支えており、小道具や音響もすばらしく、印象に残る舞台となった。（演劇部部長　橋本貞充）

劇中のシーン・リョウ（森田）とナギ（斉藤）：平成22年6月26日（土）、千葉校舎講堂

終演後の全員集合：平成22年6月27日（日）、千葉校舎講堂

図書館から

■本学教員著書リスト

（本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定）

山根源之、外木守雄　著

「小手術がうまくなる臨床のポイント」

（歯界展望別冊）医歯薬出版、2010

西井 康[ほか]著

「たったこれだけ! MTM写真でマスターする基本の「き」」ヒョーロン、 2010

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

〈大学史料室から〉

■大学史料室収蔵品紹介

○学位記の寄贈を受ける

平成22年5月、長野県松本市在住の枝 重夫先生（昭和33年卒、松本歯科大学名誉教授）から、昭和37年3月に受領された本学第１号の学位記をご寄贈いただいた。

枝先生の学位記

枝先生は昭和33年４月第１期生として大学院に入学し、口腔病理学を専攻され、松宮誠一教授の指導の下で歯学博士の学位を取得された。このたび、創立120周年を期に、同門の柳澤孝彰副学長を介して大学にご寄贈頂いたこの学位記は、大学院の歴史を紹介するうえで大変貴重な史料であり、史料室で大切に保存し、広く閲覧に供したい。

○一枚の写真（卒業アルバムより）

三崎町にあった大成中学校から撮影したものと考えられる。中央のとんがり屋根のある建物が東京歯科医学専門学校。その前の道が現在の白山通りで、奥に向かって水道橋駅。

中央線の１両編成の電車が走っているその向こうには東京砲兵工廠（現在の東京ドームシティ、小石川後楽園）が見える。

東京歯科医学専門学校遠景

創立 120 周年記念事業

■本学創立120周年記念DVDを作成

本学創立120周年を記念し、DVD「近代歯科医学教育を拓く―東京歯科大学の120年―」を制作した。これは、明治初期における歯科医学教育制度の誕生から近代歯科医学教育・歯科医療へと発展してきた日本の歯科医学の歴史に、更なる発展を目指し続ける本学の歴史とを重ねて編纂したものである。このDVDには、血脇守之助先生や奥村鶴吉先生の動画をはじめ、貴重な資料が収められている。

本学創立120周年記念DVD

■本学創立120周年記念　海外からの記念品紹介

本学創立120周年記念式典・祝賀会にご臨席いただいた、姉妹校など海外からのご来賓の皆様から、大学に贈呈された記念品を紹介いたします。これらの品々は、現在大学史料室に展示されています。

○タイ王国からの寄贈品

銀皿2枚（チェンマイ大学より）

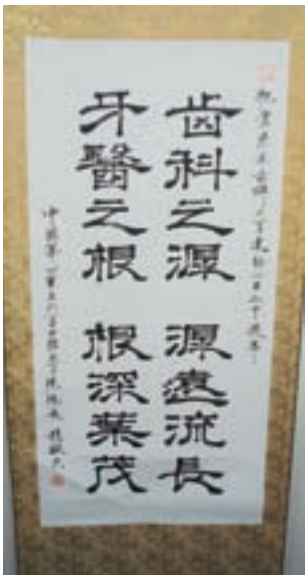
クリスタル置物（マヒドン大学より））

○台湾からの寄贈品

茶器セット（東京歯科大学台湾同窓会より）

人形（台北医学大学より）

○中国からの寄贈品



書（趙院長直筆）
（第四軍医大学口腔医学院より）

花瓶（左）（中華口腔医学会より）、花瓶（右）
（上海洞済大学小児口腔医学研究所より）

青銅の置物
（第四軍医大学口腔医学院より）

額（鷲の刺繍）
（上海洞済大学小児口腔医学研究所より）

銀皿（龍）
（北京大学口腔医学院より）

扇・額（鄭州大学より）

布絵（牡丹）（人民解放軍306病院より）

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

○筑波大学付属聴覚特別支援学校（学生10名、教員6名）
平成22年6月2日（水）解剖標本室、病院見学

市川総合病院

○日本医療情報学会（職員2名）、日本大学松戸歯学部（職員1名）、九州歯科大学（職員1名）、広島赤十字・原爆病院（職員2名）
平成22年6月23日（水）病院見学

○栃木県済生会宇都宮病院（職員6名）
平成22年6月25日（金）病院見学

○北総常磐地域医療連携協議会（50名）
平成22年6月29日（火）病院見学

■海外出張

○篠崎尚史講師・センター長（角膜センター）
アメリカアイバンク協会年次総会に出席するため、6月1日（火）から8日（火）まで、アメリカ・ヒルトンヘッドアイランドへ出張。

○外木守雄准教授（市病・オーラルメディシン・口腔外科）
American Academy of Dental Sleep Medicineで発表のため、およびスタンフォード大学睡眠外科センターとの研究打合せのため、6月3日（木）から10日（木）までアメリカ・テキサス、およびサンフランシスコへ出張。

○ビッセン弘子教授、吉野真未助教、大木伸一視能訓練士、亀井泉研究補助員（水病・眼科）
World Ophthalmology Congress 2010で発表のため、また、Human Opticsの会議に出席、および工場見学、ボン大学病院見学のため、ビッセン教授は6月3日（木）から、吉野助教、大木視能訓練士、亀井研究補助員は6月4日（金）から、それぞれ13日（日）まで、ドイツ・ベルリン、およびデュッセルドルフ、ボンへ出張。

○内山健志教授（口腔外科）
The 6th Congress of the International Cleft Palate Foundationで招待講演のため、6月8日（火）から11日（金）まで、韓国・ソウルへ出張。

○向井美弥レジデント、宮谷真理子レジデント（歯科矯正）
86th Congress of the European Orthodontic Societyで発表のため、6月14日（月）から21日（月）まで、スロベニア・ポルトロツへ出張。

○市瀬 毅レジデント、矢島恵理レジデント（水病・矯正歯科）
86th Congress of the European Orthodontic Societyに参加のため、6月14日（月）から21日（月）まで、スロベニア・ポルトロツへ出張。

○津坂憲政准教授（市病・内科）
2010年ヨーロッパリウマチ学会で発表のため、6月15日（火）から20日（日）まで、イタリア・ローマへ出張。

○田中一郎准教授（市病・形成外科）
第10回日韓形成外科学会に参加のため、6月16日（水）から19日（土）まで、韓国・釜山へ出張。

○金子 譲学長（大学）
アジア歯科麻酔学連合学術大会に出席するため、6月25日（金）から28日（月）まで、韓国・ソウルへ出張。

○一戸達也教授、笠原正貴講師、黒田英孝大学院生（歯科麻酔）
アジア歯科麻酔学連合学術大会に参加、および発表のため、6月26日（土）から28日（月）まで、韓国・ソウルへ出張。

○ビッセン弘子教授（水病・眼科）
Asia-Pacific Association of Cataract & Refractive Surgeonsで講演のため、6月30日（水）から7月5日（月）まで、オーストラリア・ケアンズへ出張。

大学日誌

平成22年6月

1（火）　平成22年度定期健康診断実施（～4日）
学務役職者辞令交付式
省エネルギーの日
防災安全自主点検日
新病院長就任挨拶（水病）

2（水）　リスクマネージメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
教務部（課）事務連絡会
千葉校舎課長会
口腔健康臨床科学講座会（水病）

3（木）　ICC（市病）

4（金）　6年生第1回総合学力試験（～5日）
学生部（課）事務連絡会

7（月）　病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会（ICC）
臨床教育委員会
医局長会
学長就任式
教育WS「臨床実習」作業部会
プログラム責任者・副責任者会議

8（火）　2、3年生健康診断
1年生ツベルクリン反応接種
第306回大学院セミナー
学長就任挨拶（水病）

9（水）　看護部運営会議（市病）
救急委員会（市病）
ICU運営委員会（市病）
業務改善委員会（市病）
リスクマネージメント部会（水病）
薬事委員会（水病）
臨床検査室委員会（水病）
放射線委員会（水病）
医療機器安全管理委員会（水病）
医薬品安全管理委員会（水病）

10（木）　1年生健康診断（編入者含む）
医療安全管理委員会（市病）
手術室運営委員会（市病）

11（金）　大学院運営協議会
ICT委員会（市病）
感染予防指導チーム委員会（水病）

14（月）　医療安全研修会
臨床研修作業部会（水病）

15（火）　臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
第307回大学院セミナー
教育WS「基礎科目」作業部会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
院内褥瘡対策委員会（市病）

16（水）　基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
学生部（課）事務連絡会
臨床検査運営委員会（市病）
CPC（市病）

17（木）　千葉校舎課長会
部長会（市病）
カルテ個別指導（水病）
診療録指導委員会（水病）
医療安全管理委員会（水病）
感染予防対策委員会（水病）
個人情報保護委員会（水病）
科長会（水病）

18（金）　実験動物供養祭
業務連絡会
高度・先進医療委員会

19（土）　全教授および修学指導関係者と保護者との懇談会
父兄会定時総会
全学生の保護者に対する修学指導方針の説明会
各学年主任・クラス主任による説明
学年主任・副主任による三者個別面談
歯科衛生士専門学校説明会
午後のリサイタル（市病）

20（日）　緩和ケア研修会（市病）

21（月）　医療連携委員会
医療サービスに関する検討会

21（月）　機器等安全自主点検日
22（火）　教養科目協議会
23（水）　看護部運営会議（市病）
　　病院連絡協議会（水病）
　　診療録管理委員会（水病）
24（木）　管理診療委員会（市病）
25（金）　クリニカルパス委員会（市病）
　　災害対策実施部会（市病）
　　社保委員会（水病）
27（日）　緩和ケア研修会（市病）
28（月）　第95回歯科医学教育セミナー
　　電子カルテシステム運用管理委員会（市病）
　　NST会議（市病）
　　ICTランチタイムセミナー（～30日）（市病）
29（火）　薬事委員会
　　データ管理者会議
　　カルテ整備委員会
　　診療記録管理委員会
　　第308回大学院セミナー

平成23年度東京歯科大学入学試験要項

推薦入学（一般公募制）

募集人員　約45名（全募集人員128名中）
（指定校制推薦を含む）

（趣旨）

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成22年3月高等学校卒業者または平成23年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

選考内容

（1）小 論 文
（2）小テスト〔外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
（3）面　　接

出願期間

平成22年11月1日（月）から平成22年11月9日（火）
（期間内必着のこと）

選考日・選考会場

選 考 日　平成22年11月13日（土）
選考会場　1）東京会場　東京歯科大学水道橋校舎
　　千代田区三崎町2-9-18
　　2）大阪会場　天満研修センター
　　大阪市北区錦町2-21
　　3）福岡会場　TKP天神シティセンター
　　福岡市中央区天神2-14-8
　　福岡天神センタービル8階

合格通知発送日

平成22年11月16日（火）

入学手続

平成22年11月18日（木）から平成22年12月3日（金）正午まで

帰国子女・留学生特別選抜

募集人員　若干名（全募集人員128名中）

（趣旨）

帰国子女および日本に留学しようとする外国籍を有する外国人で、本大学において歯科医学教育を受けることを強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成23年3月31日までに18歳に達する者。

3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成23年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成23年3月31日までに18歳に達する者。

選考内容

次の試験を日本語で行う。

(1) 小 論 文
(2) 小テスト〔外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
(3) 面　　接

出願期間

平成22年11月1日（月）から平成22年11月9日（火）
(期間内必着のこと)

選考日・選考会場

選 考 日　平成22年11月13日（土）
選考会場　1）東京会場　東京歯科大学水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18
2）大阪会場　天満研修センター
大阪市北区錦町2-21
3）福岡会場　TKP天神シティセンター
福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル8階

合格通知発送日

平成22年11月16日（火）

入学手続

平成22年11月18日（木）から平成22年12月3日（金）正午まで

学士編入学

募集人員　若干名
(編入年次)
第2学年4月に編入
(出願資格)
4年制大学を卒業した者または平成23年3月卒業見込の者

試験内容

(1) 小 論 文・小テスト（英語を含む総合試験）
(2) 面　　接

出願期間

平成22年11月1日（月）から平成22年11月9日（火）
(期間内必着のこと)

試験日・試験会場

試 験 日　平成22年11月13日（土）
試験会場　東京歯科大学　水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18

合格通知発送日

平成22年11月16日（火）

入学手続

平成22年11月18日（木）から平成22年12月3日（金）正午まで

一般入試（Ⅰ期）

募集人員　約50名（全募集人員128名中）

試験内容

(1) 学力試験
①外国語（英語：英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。）
②数　学（数学：数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B。なお、数Bは[数列]と[ベクトル]を出題範囲とする。）
③理　科（物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお、出題範囲は下記のとおりとする。）
・物理：物Ⅰ、物Ⅱ[ただし、学習指導要領に示された物理Ⅱのうち以下のものを除く「（3）物質と原子」の「イ 原子、電子と物質の性質」、「（4）原子と原子核」]
・化学：化Ⅰ、化Ⅱ
・生物：生Ⅰ、生Ⅱ[ただし、学習指導要領に示された生物Ⅱのうち以下のものを除く「（3）生物の集団」]
(2) 小 論 文
(3) 面　　接
※大学入試センター利用試験（Ⅰ期）を併願する者は、一般入試（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成22年12月16日（木）から平成23年1月27日（木）
(郵送の場合、必着)
（平成22年12月28日(火)から平成23年1月4日(火)

の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試 験 日　平成23年2月2日（水）

試験会場　1）東京会場　東京歯科大学水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18
2）大阪会場　天満研修センター
大阪市北区錦町2-21
3）福岡会場　TKP天神シティセンター
福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル8階

合格発表日

平成23年2月5日（土）　午後4時

入学手続

1. 入学金

平成23年2月7日（月）から平成23年2月14日（月）正午まで

2. その他の諸経費

平成23年2月7日（月）から平成23年2月21日（月）正午まで

大学入試センター利用試験（Ⅰ期）

募集人員　13名（全募集人員128名中）

出願資格

平成23年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

（1）大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教　科	科　　目	配 点
外国語	「英語（リスニングを除く）」	100点
数　学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目	100点
理　科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	100点

※理科について、2科目以上を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

（2）小 論 文

（3）面　　接

※一般入試（Ⅰ期）を併願する者は、一般入試（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成22年12月16日（木）から平成23年1月27日（木）
(郵送の場合、必着)
(平成22年12月28日（火）から平成23年1月4日（火）の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試 験 日　平成23年2月2日（水）

試験会場　1）東京会場　東京歯科大学水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18
2）大阪会場　天満研修センター
大阪市北区錦町2-21
3）福岡会場　TKP天神シティセンター
福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル8階

合格発表日

平成23年2月5日（土）午後4時

入学手続

1. 入学金

平成23年2月7日（月）から平成23年2月14日（月）正午まで

2. その他の諸経費

平成23年2月7日（月）から平成23年2月21日（月）正午まで

一般入試（Ⅱ期）

募集人員　約15名（全募集人員128名中）

試験内容

（1）学力試験（出題範囲は一般（Ⅰ期）と同じとする。）
①外国語（英語）
②数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択

（2）小 論 文

（3）面　　接

※大学入試センター利用試験（Ⅱ期）を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成23年2月22日（火）から平成23年3月8日（火）
(郵送の場合、必着)
(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試 験 日　平成23年3月12日（土）

試験会場　東京歯科大学　水道橋校舎
千代田区三崎町2−9−18

合格発表日
平成23年3月15日（火）午後4時
入学手続
平成23年3月16日（水）から平成23年3月23日（水）正午まで

大学入試センター利用試験（Ⅱ期）

募集人員　5名（全募集人員128名中）
出願資格
平成23年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。
試験内容
（1）大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教　科	科　　目	配 点
外国語	「英語（リスニングを除く）」	100点
数　学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目	100点
理　科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	100点

※理科について、2科目以上を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。
（2）小 論 文
（3）面　　接
※一般入試（Ⅱ期）を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。
出願期間
平成23年2月22日（火）から平成23年3月8日（火）
(郵送の場合、必着)
(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)
試験日・試験会場
試 験 日　平成23年3月12日（土）
試験会場　東京歯科大学　水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18
合格発表日
平成23年3月15日（火）午後4時
入学手続
平成23年3月16日（水）から平成23年3月23日（水）正午まで

編入学

募集人員　若干名
（編入年次）
第2学年4月に編入
（出願資格）
次のいずれかを満たす者とする。
①4年制大学卒業者または平成23年3月卒業見込の者
②医療技術系短期大学を卒業した者または平成23年3月卒業見込の者
※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者
※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。
試験内容
（1）学力試験（出題範囲は一般（Ⅰ期）と同じとする。）
①外国語（英語）
②数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択
（2）小 論 文
（3）面　　接
出願期間
平成23年2月22日（火）から平成23年3月8日（火）
(郵送の場合、必着)
(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)
試験日・試験会場
試 験 日　平成23年3月12日（土）
試験会場　東京歯科大学　水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18
合格通知発送日
平成23年3月15日（火）
入学手続
平成23年3月16日（水）から平成23年3月23日（水）正午まで

<学納金>…　全入試制度共通

入　学　金	600,000 円	(入学時のみ)
授　業　料	3,500,000 円	
歯学教育充実費	4,300,000 円	(入学時のみ)
施設維持費	1,000,000 円	
合　　計	9,400,000 円	

東京歯科大学広報　編集委員

橋本貞充（委員長）

石塚順子　井上直記　上田貴之　内田篤志　王子田 啓　金安純一　狩野龍二　齋藤 淳　椎名 裕
新谷益朗　髙橋俊之　武本 桂　中村弘明　日塔慶吉　旗手重雅　前田健一郎　百﨑和浩

（平成22年6月現在）

編集後記　「金子 譲学長再任・新人事」

金子学長をトップとする新体制で望む３期目は、熱田俊之助理事長のお言葉にもあるように「歴史と伝統を継承しながら将来を展望すべく、伝統の地、水道橋にメインキャンパスを移す」という大きな変革の時と重なります。

30年前、水道橋から千葉への大学移転の時には、さまざまな声があったと聞きますが、長い時を経て、中庭にあるケヤキの木のように、しっかりと千葉の地に根を張り、大きな枝を伸ばして立派に葉を茂らせています。そして、広い緑のキャンパスが、5,000名近い数多くの千葉育ちの学生達の青春とたくさんの想い出を見守ってきました。

次なる30年、回帰した伝統の水道橋の地では、いったいどんな未来が待っているのでしょうか。

市川総合病院の外来ロビーで、午後のリサイタルが開かれました。平成８年にピアノが寄贈されたことから始まり、今回で144回目になるとのこと。長い入院生活を送られている患者さんたちにとっては、きっと病気への不安やつらさが、癒されるひとときになったと思います。そして、演奏される多く方が、患者さんから逆に勇気づけられたと感じられるそうです。ここに患者さんと市川総合病院スタッフとの信頼関係が見えるような気がします。

大学院一年次の岡田玲奈さんが（財）海外邦人医療基金主催のマニラでの巡回健康相談事業に参加し、現地の診療所で、歯科相談会や刷掃指導をおこなったとのことです。大学院生や若いメンバーが、国際学会での発表はもちろんのこと、いろいろな形で海外での経験を積むことができればと思います。

規程の改正がありました。育児についての所定外勤務の免除や家族のための介護休暇、父親が取得する育児休暇などについてです。子育てや介護に対する意識が変わっていくひとつのきっかけになることを期待しています。

広報の編集委員も、６月１日からメンバーが新しくなりました。大学の中枢や心臓のみならず、全身の隅々の組織が、循環障害を起こしてしまわないように、栄養となる“情報”を少しでも多く、正確な記録性を持ってお届けしたいと思います。そして、広報の紙面が、それぞれ異なった部署やグループでの出来事や、様々な意見が広く発信され、多様な情報が交流する場として活用される事を期待しています。インターネットのように広汎で迅速性を持った情報伝達ではないかもしれませんが、紙の持つ、ゆるやかではありますが、永続性のある情報手段の中に、広報が担う役割があるのではないでしょうか。

大学広報から発信する情報と記録が、少しでも皆さんのお役に立つようにというおもいで、一同、編集に携わって参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記では、新しいシリーズとして、立派に育った千葉校舎の四季を写し撮っていきます。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）

初夏の日の講堂